

別紙⑥ 岡山繊維産地協議会 金融検討会議

日時：令和 6 年 12 月 23 日（月曜日）15 時 30 分～17 時 00 分

会場：倉敷ファッションセンター1F ギャラリー（岡山県倉敷市児島駅前 1 丁目 46 番地）

議事要旨：

事務局より開会挨拶、本日の趣旨を説明した。

意見交換をファシリテーター佐藤豪人氏にて行った。

金融機関参加者より、前回の金融検討会議で議論した内容について振り返った

- ・10/17の金融検討会議では、若手交流会にて提案された内容を4グループより報告した。ファッションショー、道の駅、ホテル、温泉
- ・発表後、各グループで検討した後、若手及び責任者より意見を発表した
- ・最後に、現実的に実現できそうな取り組みを2案選定した。

※必ずしも全く新規ではなく、現在ある取り組みを発展させるものでも可
集計の結果（計21名）

- | | |
|----------------|---------------|
| ・ファッションショー | 10（責任者4、担当者6） |
| ・道の駅 | 9（責任者4、担当者5） |
| ・ホテル（コンセプトホテル） | 1（責任者1、担当者0） |
| ・温泉 | 1（責任者0、担当者1） |

ついては、本日は、具体的な取り組みについて検討するため、最も選択者の多かった「ファッションショー」を取り上げたい

- ・2025年春「せんい祭」でファッションショーを開催することは可能か

→ 繊維関連参加者より「イベントにて、時間を空けることは可能ではないか」との回答

- ・2025年春「せんい祭」でファッションショーを開催することとし議論する
- ・来場客の目線で「どのようなファッションショーであれば来たいと思うか」

（意見）

- ・地元の人、学生、地元企業の役員、著名人をもでるにする
- ・当日の来場者に体験型として参加してもらう
- ・ファッションショーの出演者を事前に公募する
- ・当日バザーで売っているものでコーディネートを組む
- ・児島の企業別で新作の着こなし方について披露の場とする
⇒こういう制服を着たい、と思う若い働き手が増える
- ・写真撮影コーナーを設ける
⇒人気学生服の試着の場とする
- ・服以外の音楽（ミュージックバンドなど）とタイアップする
- ・地元の民謡や歴史を取り入れる（例：下津井節）
- ・地元専門学生、インターンシップ学生の成果発表の場とする

- ・若いだけでなく、お年寄りにも同じ服を着用しランウェイに出てもらう
- ・つくり手（職人）にスポットを当てて、特徴やこだわりを紹介する
- ・着用されている衣服が製造されている工場を見学する
⇒実際にその衣服を着用してみて、工場を見学して感じたことをファッションショーの中で発表する

※意見出しを行うなかで、現実的に『何を』行うかの前に、『なぜ』『どのように』を先に議論・決定すべきではとの意見が出された

- ・「なぜ」ファッションショーを行うのか、に返って議論することとした

（意見）

- ・児島をもっとより良くするため
- ・児島の文化・産業を「つむぐ」ため
- ・児島の良いものを世界に発信するため
- ・児島の経済をまわすため
- ・人材不足の解消を図るため
- ・つくり手の想いを表現するため
⇒製造工場を見学し、どういう想いでつくっているのかを知るため
⇒製造工場を見学することで、着る服のうんちくを語れるようにするため
- ・課題解決につなげるため。ファッションショーを実施し、広く知ってもらって知名度を高める
⇒すべての課題の解決にはならないかもしれないが、出来ることから始める
- ・ブランド力を高めれば、人が集まってくる。ブランド力が無ければ集めないといけない

（整理）

- ・児島の良いもの、デニムなどの知名度が低い。SNS等を使ってすべての人に広める
- ・児島の文化がなぜ根付いたのか、児島の歴史を若い人たちにももっと知ってもらう
- ・より良くする。金融機関が連携、町と金融が連携して、『児島＝繊維』を発信する
- ・ファッションショーはありふれている。どんなファッションショーなら来てくれるか？
⇒製造工程を知ればその服に愛着が生まれる。

そこで、ファッションショーのモデルを募集し製造工程を説明、製造工程を知って広報してもらう

ファシリテーター佐藤氏より以下の発言があった

ファッションショーで「何を」伝えるか？

- ・ものづくりのファッションショー
- ・繊維のこだわりのファッションショー
- ・歴史紹介のファッションショー

見せるべきものが明確であれば、ファッションショーで見せることが可能

児島といえば繊維、を見せるのであれば、「他にはない」ということや、「歴史の中に

ある思いを知ってほしい」など

金融機関の参加者より、以下の発言があった

- ・「つくり手の思い」が中心となるのではないか

繊維関連の参加者より以下の発言があった

- ・金融の方が集まって、繊維のことをあまり知らない人たちが、「児島のことを知ってもらいたい」と思ってもらえることはありがたい

そこで気づいたことは何か、なぜそう思うのか、を知りたい

また、金融機関の目線で、ということが重要ではないか

金融の業界の方々が繊維のことについて議論しているということ自体がすごいこと

内容もさることながら、「そのこと自体」を発信する価値があると感じた

- ・金融機関の目線として、おもしろいこと、が良いと思う
今回のことで、金融機関のイメージ自体をも変えていこうとしていると感じる

- ・今回お集まりの金融機関の皆様は、若く、児島の外から集まっている。

児島で育った自分よりも、金融機関のメンバーの方が、伝えたい対象に近い

繊維業界の立ち位置からは、まずは繊維関連の企業を知ってもらいたい、と考える

- ・今回の議論の本質として、ファッションショーが本当にやりたいことなのか？

本当は「儲けたい」では無いのか？

企業としては、儲からなければ継続できない。それならば、金もうけすればよい。

歴史があって、思いをもって作っていたとしても、儲からなければ続かない

- ・金融機関と繊維業界との連携の事例は、他にはない

そのため、それだけでも付加価値があると考え

それだけでニュースになるのではないか

つくり手の思いよりも、「つなぎ手の思い」を伝えるべきではないか

ファシリテーター佐藤氏より、以下の発言があった

- ・「金融から見た繊維」、「金融機関が企画した内容」ということ自体に価値があるのではないか

- ・金融機関の信用力、金融機関としての目利き力を用いて、説明会や勉強会などを開催すればよいのではないか

(整理)

※「なぜファッションショーを」について議論するなか、本日は最終的な意見をまとめるには至らず、時間の都合上終了し、次回へ持ち越すこととした

※金融、業界だけでなく行政も一緒に産地の未来について考えていただき、皆で一緒に取り組んでいきたいとの共有を行った。

【まとめ】具体的な事業として「ファッションショー」に取り組むこととし、2025 年春のせんい際にてイベントに取り組む方向で、金融機関に加え繊維関連の参加者も加わって議

論を行った結果、どのようなファッションショーとするかについては、金融機関が実施することの価値を最大限に生かした内容とすべき意見は出され、次回以降引き続きイベントの具体策について検討を継続することとした。

以上

お問い合わせ先

岡山県産業労働部産業振興課地域産業班

電話：086-226-7352 FAX：086-224-2165

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki43/>

一般社団法人倉敷ファッションセンター

電話：086-474-6800 FAX：086-474-6801

<https://www.k-fc.com/>